

### 3-1. 中央図書館整備の「使命」そしてあらたに

#### (1) 文化都市にふさわしい「本の館」の3つの使命をはたします。

多摩市の中央図書館整備にあたっては3つの柱を念頭にと、図書館協議会は提言をしています。

- ① 多摩市の図書館システムの中核として、7つの地域館と結び合い、その活動を支えます。
- ② パルテノン多摩との連携も図りつつ、多摩市の文化・情報・教養活動の基地となります。
- ③ 学校との連携も含め生涯学習の拠点となり、市民のコミュニケーションの向上に役立ちます。

※出典：平成22年4月  
多摩市立図書館協議会  
「多摩市における中央図書館機能およびその整備のあり方について(答申)」  
1、(総論)より



本に出会い、ものに出会い、人に出会い、自分を確かめる。ひとりでふと我に返る環境。緑陰の読書テラスのイメージ

少子高齢化の進む多摩市の将来を考えたとき、高齢者にとって住みよい都市づくりはもちろんのこと、若い世代にとっても魅力的で、とりわけ子どもを育てるのにふさわしい都市づくりの視点を欠かすことはできません。

幸い多摩市は豊富な自然環境に恵まれているうえ、多くの大学が集中する地域内に位置し、さらに芸術・芸能を発信する「パルテノン多摩」という貴重な施設を持つ文化水準の高い都市といえるでしょう。しかし、そうした中で活字文化や情報収集の拠点となる図書館の現状は、とても十分とは言えず、より魅力的な文化都市を創造してゆくためには、新たな「本の館(やかた)」というべき中央図書館を建設し、サービス内容を質量ともに深めていくことが求められます。(答申総論より)

#### (2) そして新たに、中央図書館に期待される「都市の広場」としての使命も加えます。

##### ① 子どもたちにとっての「愉快的ひろば」

それは、子どもたちにとっては、かつての、はらっぱ、かみしばい、おまつりひろば、にかわるものでしょう。出会うことが、知る喜びの入り口にあり、中央図書館は、ひろばを提供するのです。



図書館の中庭ひろばでボランティアが人形劇

##### ② ティーンズにとっての「たまり場」

それは、十代の若い人にとっては、はやりの、おしゃべり場、自由広場、ラーニングcommons、であり、新しい意味での学習スペースといえるでしょう。中央図書館は、若い人たちに居場所を提供するのです。



ティーンズのたまり場、ラーニングcommons

##### ③ おとなにとっての「知の広場」

それは、時間にゆとりのある高齢者ばかりでなく、働き盛りの壮年のひとたちにとって、ひとりの居場所、出会いの場所、知る喜びの場、生き抜いてゆくための知的トレーニングジム、おだやかさを取り戻すラウンジ、といえるでしょうか。中央図書館は、多様なサードプレイスを提供するのです。



ひろば型の開架室でイベントコンサート

#### ◎ トピックス：

安心して暮らし続けられるまちを目指し、取り組みが本格的に始まります



人口減少や急速な高齢化等を迎える中、さまざまな課題や新たなニーズにも対応していくため、多方面から取り組んでいます。

#### ◎ トピックス：パルテノン多摩の魅力再生と連携して

##### パルテノン多摩

##### ● 改修により、多くの市民に親しまれる公共ホールへ再生

パルテノン多摩は、昭和62年に開館してから、文化芸術の振興だけでなく、年間50万人を超える集客による経済効果等、多摩センターににぎわいをもたらす施設となっています。築29年目に入った建物の設備等は使用の限界を迎えていますが、突然の不具合による利用停止や講演中止は避けなければなりません。さらに、文化芸術活動の拠点施設として市民に親しまれる、また自然と人が集まるような公共施設として再生するため、施設の大規模改修を行います。同時に、多摩中央公園をはじめ周辺施設と一体的な整備を行うことで、多摩センター全体の活性化を図っていく考えです。改修に向けた市民参加の基本計画策定委員会でご意見をいただきながら、市民の皆さんに親しまれ、愛される施設として平成32年度の開館を目指します。



パルテノン多摩

#### ◎ トピックス：中央図書館の整備を中心市街地の活性化ビジョンに組み入れて

### 4. 図書館本館の整備を進めます

※トピックス出典：  
多摩市政情報誌 vol.1.3  
より

#### 図書館

##### ● 本館の恒久整備と図書館全体の仕組みの見直し

平成30年までの暫定として旧中学校校舎を改修し使用している本館は、施設の安全確保や図書館サービス全体の維持、時代に合わせたサービスへの向上を行うため、再整備します。本館整備と合わせて、図書館全体の仕組みを見直し、地域に必要なサービス内容や運営体制について検討します。

整備地については、鶴牧倉庫跡地から変更し、学校法人桜美林学園との間で、現本館用地と交換を進めている多摩アカデミーヒルズ用地の一部で整備する予定です。施設整備や維持管理については、民間のノウハウや資金を活用する方法を検討するとともに、土地交換で生じた差額の収入を整備費用に使用します。



図書館本館(旧西落合中学校)

#### 鶴牧倉庫(旧管路収集センター)

##### ● 売却や貸付等の再検討

図書館本館の整備予定地として民間施設との合築による施設整備を行う方向性を示していましたが、検討した結果、民間による施設整備のメリットが少ないことから、売却や貸付等に向けて検討を行うこととしました。

### 3-2. 中心地区につながる開かれた中央図書館

#### (1) 中央図書館の敷地（候補地）に求められること

多摩市の中央図書館の敷地選定にあたり、都心部環境との関係づけの視点から、図書館協議会は提言をしています。そこでは、必要な条件が整理されています。

- ① 図書館建築の開架室には十分な広さが必要で、これを可能とする敷地。
  - ② 図書館の周辺用途や道行き環境には、ふさわしい環境がのぞましい。
  - ③ 公共交通機関から徒歩で行ける距離で、アクセスしやすい道行きがのぞましい。
  - ④ 利用者や運営業務の車が走行する道が必要で、十分な駐車場がとれるとよい。
- このたびの候補地は、施策の工夫次第で、4つの条件が満足されると思われます。

#### (2) 中央図書館候補地へのアクセスしやすさとイメージ

- 人のアクセス：多摩センター駅から敷地への距離は800m程で2ルートです。
  - ・公園西側の歩行者専用路は比較的フラットな径で、自転車や車椅子も使えます。
  - ・階段エレベーターが改良される中央公園内を通る径は、快適な散策で歩けます。
  - ・南地域にお住まいの方々も歩行者専用路で焦点の辻広場からアクセスできます。
- 車のアクセス：南側のサービス車道から、送迎や駐車や業務の車両が入ります。近隣の公共民間の駐車場も中心市街地ですから、界隈に散在して利用できます。
- 駅から敷地までの循環ミニバスの運行も期待されますが、今後の工夫要素です。

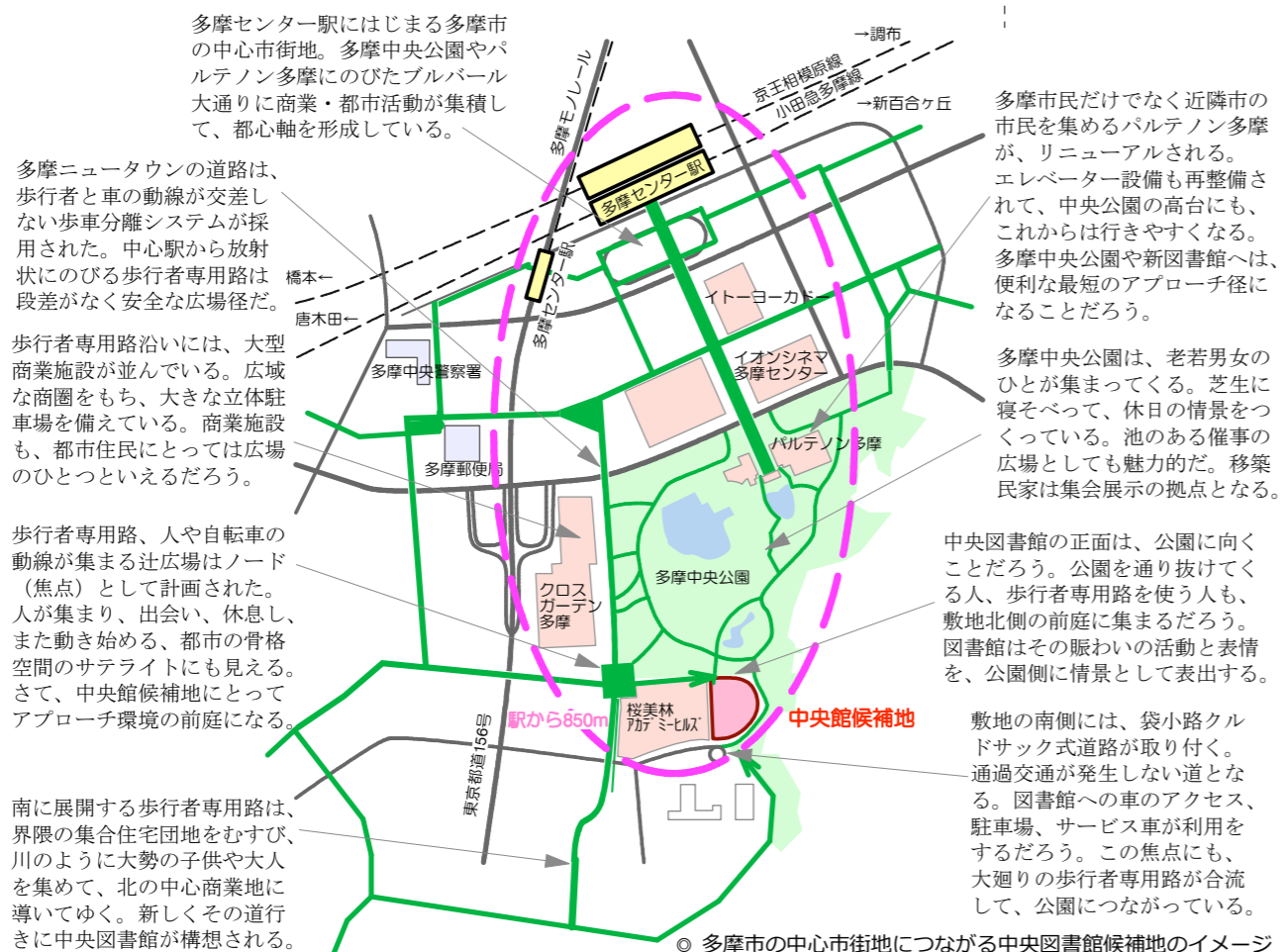
※出典：平成22年4月  
多摩市立図書館協議会  
「多摩市における中央図書館機能およびその整備のあり方について(答申)」より  
「3. 中央図書館はどこに」敷地選定にあたり都心部環境との関係づけの記載を、策定委員会協議の基礎資料とした。



※湘南T市駅と図書館を結び循環するコミュニティバス。料金は一律150円。同様の赤いミニバスは浦安図書館前にも循環しています。

#### (3) 中心市街地の都市構造と中央図書館候補地のイメージ

駅前の商業施設群プロムナード、パルテノン多摩、多摩中央公園、中央図書館へと、多摩市の中心市街地環境がつながり、賑わいのゾーンがひろがっています。中央公園の緑のむこうに、図書館にはふさわしい落ち着いたアカデミックな施設が並びます。ガラス張りの図書館内の活動が公園から見ると楽しい情景です。



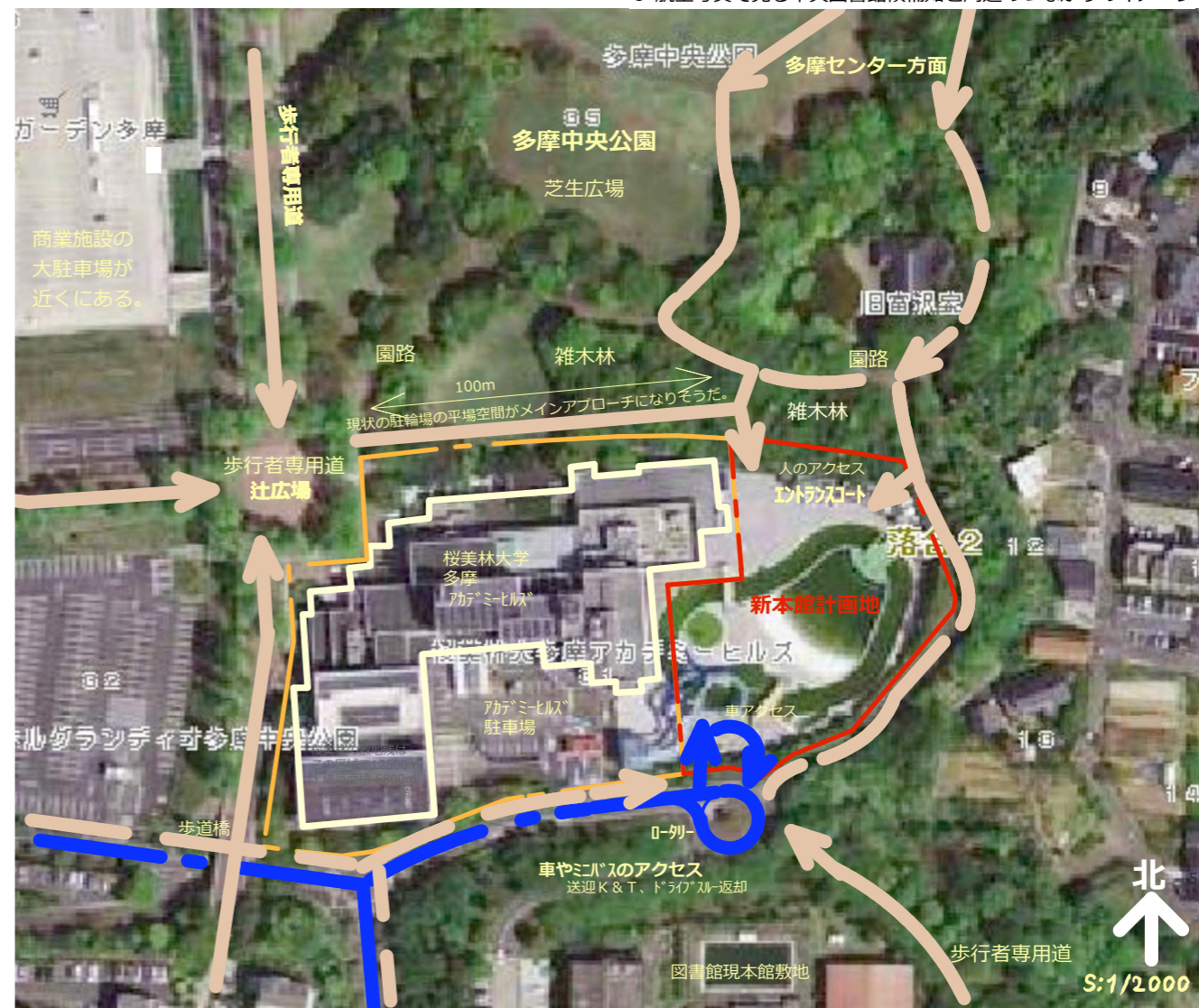
#### (4) 中央図書館候補敷地と周辺のつながりのイメージ

敷地は公園や歩行者専用路にかこまれた、約6000㎡のフラットな切り土造成の安定した敷地です。緑に囲まれて、交通や雑踏の騒音のない落ち着いた環境です。用途地域は第二種住居専用地域、建蔽率60%、容積率300%、緩い日影規制です。建築面積は3600㎡まで可能ですから、図書館開架は2層で構成できて理想的です。敷地内には、駐輪場のほか駐車場は100台以上必要に思われますが、図書館計画を破綻させずに配置や動線を工夫して、魅力的な都市環境の一部としたいものです。敷地や施設を公園に開きつなげるために、中央公園の隣接部側での竹木の整理や築山のしつらえの再整理などが望まれると、基本構想では議論されています。

#### (5) 街とつながり、開かれた中央館の活動と環境のイメージ

中央図書館がこの敷地に配置された環境を想像して、基本構想が議論されました。公園側からアプローチしてゆくときの風景や活動の見え方が大切だと話されました。北側から逆光で図書館正面に向かう形では、明るい印象づくりの工夫が必要と意見が出ています。図書館の中だけでなく、緑陰の読書テラスや、周辺の緑に突き出した読書バルコニーの魅力も話し合われました。夜間も集会や展示に利用できるゾーンは公園に開かれて光があふれていたたり、教室のように机がただ並ぶのではなく、グループで三々五々に集えるラーニングコモンズも紹介されました。三次元プリンターのある図書館のメイカースペースも最近の話題です。関戸や永山の駅前図書館とは異なる、図書館活動の奥行きと広がりが想像されました。

◎ 航空写真で見る中央図書館候補地と周辺のつながりのイメージ



### 3-3. 基本的図書館サービスとあたらしいサービス

多摩市の中央図書館の役割とサービスについて図書館協議会は提言をしています。多摩市の図書館システムの中核として、また7つの地域館と結びあい、その活動を支えるとして、4つの担うべきサービスについて述べています。

#### (1) 「専門的で充実した図書館サービス」を担います。

- 1、各方面の資料、専門書を集め、資料世界の構造化と展示表現を磨きたい。
  - ・資料規模は大きく、できるだけ開架展示を。公開書庫方式も研究したい。
  - ・全国で先行している図書館の試みを研究、長期的展望で資料収集と構築。
- 2、充実したレファレンスを。日常の市民の課題解決、ビジネスへの情報支援。
  - ・職員集団の参考相談業務の技術研鑽方式を、先進市を参考に研究したい。
  - ・多摩市独自の地域資料、行政資料を充実させてアーカイブ化に導きたい。
- 3、マルチメディアの資料を導入し蓄積したい。(漫画も含むか)
  - ・音声映像のAVやCDで芸術以外は主題別に混配し構築したい。
  - ・地域館でも利用できる雑誌新聞、有料データベースを拡大。
- 4、ICT(インターネットやコンピューター技術)を導入したい。
  - ・ICチップを資料管理に加えて混配表現を導入を研究したい。
  - ・自動貸出、予約本セルフコーナーなどの展開を研究したい。
- 5、市外の図書館ともこれまで以上に連携し、役に立つ図書館に。
  - ・京王沿線七市連携の相互利用制度を発展させていきたい。
  - ・市内大学図書館と連携して、学生を多摩市のコミュニティメンバーと考え、サービスと協働の可能性を研究したい。

※出典：平成22年4月  
多摩市立図書館協議会  
「多摩市における中央図書館機能およびその整備のあり方について(答申)」  
「4. 中央図書館の役割とサービス」P5-P8より  
多摩市の中央図書館機能の必要性とその整備のあり方について、図書館協議会は提言をしています。図書館システム全体を俯瞰しつつ左のような課題を上げています。  
基本構想では4つに再編して整理しました。

※ICT環境にはプリンターの連動など制作環境も必要。



静かな目、平和な心、おだやかな資料世界

#### (2) 「全域奉仕・分館支援・アウトリーチサービス」を担います。

- 1、分館と学校へのネットワークに力をいれたい。  
移動図書館にかわる配本車の導入で支援充実を研究したい。
- 2、来館困難な方には宅配システムでご希望の本を届けたい。  
広い意味でのバリアフリーな図書館アクセスをめざしたい。
- 3、幼稚園保育園、病院、老人施設ともつながる目標としたい。  
でかけてゆく、とどける、つながる、をめざしたい。



ブックコンテナで700冊を乗せて出掛ける配本車

#### (3) 「全市図書館システムのセンター機能」を担います。

- 1、蔵書構築と資料保存の機能を整えたい。(100万冊の提案)  
その規模は、基本計画で研究し条件を精査していきたい。
- 2、ICT導入で、情報の流通や資料管理を整えます。  
全市の図書館資料が共通MARCであることの強みを生かす。
- 3、利用者グループや友の会など市民との協働を受入れたい。  
図書への寄贈呼びかけ、受入れで、市民と一体化したい。
- 4、小中学校を支援し、学校司書たちの活動拠点になりたい。  
教員への支援や、児童生徒の貸出密度活性化を支えたい。



開架室の奥、見えて入れる公開書庫という形式

#### (4) 「市民のひろば、多様な市民活動を支えるサービス」

- 1、施設のバリアフリー対応は、**と場の提供**を担います。  
新しい法律に準拠を。アクセスにミニバスがあってほしい。
- 2、催事企画もコミュニケーションサービスとして重視したい。  
図書館窓口にコミュニティ相談の担当をつくりたい。
- 3、展示や喫茶スペースなど交流機能を施設計画に複合したい。  
市民やグループが自由に使える集会や展示の場を造りたい。
- 4、自由な広場性機能、集会機能、ラーニングコモンズなど  
図書館を舞台にした市民活動の場を、複合的に計画します。



ギャラリーフリースペースで、小学生の管弦楽

加えて、基本構想策定委員会では、時代が求める新しい図書館サービスの動向について、議論して提言をしています。別視点で担うべきサービスの方向になります。

#### (5) 「時代が求める新しい図書館サービス」を担います。

ICTなどの技術革新は、働き方、生活課題、学び方に変化を要求しています。また社会関係の変化も個人に対応をせまります。時代と社会の変化を整理して考えます。

- ①. 「自己判断自己責任」型社会への移行は、あらたな「格差」をつくっている。  
企業や行政だけでなく個人も変化する社会に対応してゆくには、自ら調べ考え判断する行動様式が求められるが、「正確な情報が公平に提供される」社会のインフラが必要になる。図書館は、これまで以上に情報提供の社会インフラとしてのサービスを深化させていく必要があると想像される。
  - ②. 市民の情報環境は変化し、従来の情報システムには限界がみえている。  
読書のかたちは、通読型だけでなく、並列型、ピックアップ型、情報収集型に移行するが、マスコミ、出版流通、インターネットは情報システムとして限界を露呈した。専門書は流通が稀少で入手困難、インターネットは体系的網羅的な知識や考え方に対応しない。マズプロ情報の海に対峙する図書館が必要だ。
  - ③. 発生する「課題」は複合的であり、公立図書館特有の総合性が有効となる。  
文科省の社会教育調査で、公共施設の中で図書館が最も利用が多いとわかった。どう使えるかが周知され、出会いの広場であることも要因だが、人生で起こる問題は複合的で、個別専門的相談機関では役にたたない。総合的な分野の情報がストックされた図書館はワンストップ相談窓口、あとは使い方相談が必要だ。
  - ④. まちづくりや医療介護分野に「課題解決型サービス」が各地で展開されている。
    - 農林漁業・地元企業・商店への仕事情報提供、勤労者再教育などビジネス支援サービスは、資料を越えて関連機関と共同した相談・講習・催事・事業に展開。
    - 地域への医療介護情報の提供では、インフォームドコンセントの為のセカンドオピニオンとして拠点病院の情報提供や自治体の医療費削減政策と連携する。
    - 訴訟社会への動向に、地域への「法律情報提供サービス」が米国ではみられる。
    - 行政首脳や各部門へ、政策判断・研究に資する情報提供や調査レファレンス、行政事務の効率化や職員の自己研修支援など「行政支援サービス」といわれる。
    - 市町村議会議員の活動を情報収集・政策作成面から支援するサービスがある。
    - 行政庁舎や行政資料室は土日閉庁であり、図書館が行政情報を市民に提供する。
    - 乳幼児・児童の言語能力の育成、青少年の論理的思考能力の向上、成人労働者の情報リテラシースキルの習得、デジタル社会での就業スキル習得支援など、福祉・教育・労働など他部門の「行政施策と関連し連携する図書館サービス」。
  - ⑤. あらためて、市民一人ひとりの課題を解決できる図書館の条件を掲げたい。
    - 情報の専門職「司書」が必要な人数採用され、市民の情報収集をサポートする。
    - 娯乐的教養的な目的だけでなく専門的多面的な方針で、本、雑誌が収集される。
    - 有料のデータベースや電子書籍、AVマルチメディア資料が、無料で提供される。
    - 近隣都市連携のように、都立、国会、大学図書館と盛んな相互利用を仲介する。
    - 市民が自由に交流・活動し、創造につながる支援までサービスの視野に入れる。
- ※参考資料
- ・『未来をつくる図書館』菅谷明子
  - ・『税金を使う図書館から税金を作る図書館へ』松本功
  - ・『図書館のめざすもの』竹内さとる
  - ・『課題解決型サービスの創造と展開』大串夏身
  - ・『ビジネス支援図書館の展望と課題』(財)高度映像情報センター2006.
  - ・『特集：ビジネス支援事始』みんなの図書館06.6.
  - ・『特集：ビジネス支援』現代の図書館03.6.
  - ・『特集：図書館サービスとしてのビジネス支援』図書館雑誌2003.2.
  - ・『図書館があなたの仕事をお手伝い』ビジネス支援図書館推進協議会2010
  - ・『特集：カラダと病気の情報を探そう』みんなの図書館03.9.
  - ・『健康・医学情報を市民へ』JMLA叢書
  - ・『図書館における医療・健康情報の提供』現代の図書館05.12.
  - ・『医療・健康に特化した地域連携パスファインダー「メディカルパス」』図書館雑誌12.4.
  - ・『特集：法情報へのアクセス拠点としての図書館』現代の図書館04.4.
  - ・『特集：図書館における法情報提供サービス』図書館雑誌08.4.
  - ・『法情報サービスと図書館の役割』指宿信
  - ・『アメリカ：公共図書館の商用データベース提供』
  - ・『市立図書館の改革-知識創造型図書館へ』図書館界63巻2号
  - ・『MAKERS』クリスアンダーソン

※出典：平成28年10月  
第五回多摩市立図書館  
本館再構築基本構想  
検討委員会より

※地場産業や商品を応援する  
地域振興ではなく、知的  
な地域再生を支援するのが  
これからの図書館の使命だ。

※米国シアトル図書館には、  
400台のPC端末が並んでいる  
が、インターネットでは  
なくて、有料データベース  
利用を市民は目的にする。

※ビジネス支援はあたらしい  
図書館サービスの概念では  
ない。個人の自己実現を、  
図書館という組織が使命と  
考えているということだ。

※鳥取県立、秋田県立、  
都立中央、浦安市、立川市、  
田原市、広島市、小山市、  
塩尻市、伊万里市の事例。

※がん対策基本法、  
※医療専門司書の存在、  
※信大医学部図書館と松本  
図書館、がん研東病院と  
柏・流山・野田図書館の  
連携。図書館の医療相談  
デスクに看護師がいる。  
※浦安図書館は2病院に本  
を届け、患者の明るい気  
分づくり読書を支援する。

※日野市、浦安市、ほか  
議員別に政策チラシの  
ファイルが作られている。  
※行政書士とも連携する。

※浦安市図書館のAV資料数、  
有料データベース資料と  
比較研究が分かりやすい。

※塩尻図書館にあるフリース  
ペース(公共図書館の  
ラーニングコモンズ)、  
3次元プリンターのある  
メーカーズスペースなど  
創造活動支援も図書館だ。

※多摩の図書館では2010年  
から有料データベースと  
して大宅壮一文庫のWeb  
配信。(雑誌1万種70万冊  
索引500万件の過去資料)

※米国シアトル図書館には、  
情報技術革命をおこした  
ビルゲイツが、20億円を  
20年間、400億円の寄付を  
して、資料や機材を支援  
しているという。

### 3-4. 市民協働で「もの」と「こと」のデザインを

多摩市の中央図書館とまちづくりを、市民と図書館と一緒に考えてゆきましょう。施設づくりについても基本計画を作ってゆくことになります。さて、図書館づくりには、資料、職員、施設の3要素で議論するのが常ですが、それぞれの要素中にも「もの」と「こと」（場と活動）が入っていて、大切な検討の視点になるのです。

多摩市の中央図書館の役割とサービスの中で、図書館協議会は提言をしています。定期的な利用者懇談会の開催や、市民企画展示、市民活動紹介、積極的な市民の意志の取り込みにふれて、その根本は、一人ひとりの求めや利用者ニーズに向き合う職員のあるべき姿であるとしています。そして職員の専門性と採用方式の重要性に視点をつなげて提言がされています。

※出典：平成22年4月  
多摩市立図書館協議会  
「多摩市における中央図書館機能およびその整備のあり方について(答申)」  
地域コミュニティの中核として、より

#### ① どんな資料世界をつくるのか。

こうした議論や計画の前提には、求められている資料や、人や利用のかたちに想像をめぐらす時間があり、それが「こと」のデザインの段階です。

資料の収集では、新刊案内やリクエストを基礎に選書されたり分類が精査され、装備やMARCが決められています。これからは、5年先10年先の開架世界のビジョンを先に定めて、配架や分配を考え複本検討をしたり、構築の優先順序が必要になります。先に骨格を造りあとで肉をつける形式や工程の計画を考えるデザインです。100人の意見を聞くだけでなく、全体を俯瞰して判断する中枢・司令塔が重要で、それが中央図書館の存在理由となります。

#### ② どんな施設環境をつくるのか。

場の計画の前提として、そこで想定されている活動や、はたすべき機能の量や質の概要を想定する必要があります。図書館施設計画の領分であり、もののデザインです。活動と施設は相関関係があって、施設の不備は活動やその将来の成長を制約して、施設の寿命を短くもします。ことは、ものより先に考えるべきです。他方、魅力的な環境は想像以上に活動を誘発し成長させることもあります。「こと」（出会いや発見や学びや喜び）のデザインは、容れ物である場とともに想像することで、創造的に膨らみます。例えば図書館では、いかに少人数で開架室を運営できるか、それが可能な施設かが、ランニングコストやライフサイクルコストのマネジメントに大きく関係します。経営に叶うことも必要です。

#### ③ どんな図書館員が図書館サービスを担うのか。

図書館は75%が図書館員で出来ていると言われてきましたが、正確には、図書館政策であり職員組織であり図書館員個人の意欲とスキルに関わっているということです。基本構想策定委員会は、①図書館サービスを市の直営で行うことの利点②職員や職員集団の専門性を発揮させることの重要性③新人採用や多様な職種編成による人事計画性④専門性継承と現状人件費の圧縮を可能にする経営（業務や開館時間に関連）など、今後の研究に方向性と示唆を与えています。経営と人事に関わる「こと」のデザインです。

#### ④ 主体的で自律した市民はどんな協働を想像するか。

多摩市の40年の図書館政策は、図書館を良く知りよく利用する市民を育てました。市民も生涯学習や自己実現を求めて、お話し会や点訳朗読奉仕や催事の協働など、図書館での活動を広げました。中央図書館が出来ることで、より多くの多様な市民が、図書館で活動を展開するでしょう。こうした市民の生涯学習やボランティア活動をコーディネートする担当が図書館に必要です。また催事などでは市民の側にも、協働という「こと」のデザインを想像して展開させる、図書館フレンズのような活動もありそうです。



ライブラリーフレンズが「本のリサイクル市」



図書館パティオの日曜日「フリーマーケット」



学校図書館司書さんと一緒に「図書館研究会」



市民が「図書館の誕生日」を祝う

## 第四章 中央図書館づくりの進め方

### 4-1. 図書館計画に欠かせない4つの視点

### 4-2. 資料世界構築と開架の配架表現

### 4-3. 大切な図書館員の専門性と職員組織づくり

### 4-4. 機能的/快適/魅力的/経済的な施設づくり

※各頁の文章を補完する挿入写真は、活動のイメージをお伝えするための各地の図書館の風景です。

## 4-1. 図書館計画に欠かせない4つの視点

多摩市の中央図書館機能の必要性とその整備のあり方について、図書館協議会は提言をしています。図書館システム全体を俯瞰しつつ以下のようにまとめています。基本構想の議論では、中央図書館が都市の賑わいと活力を持ち表現するためには、単独機能より複合機能を押す声もありましたが、以下のように、図書館の本質を考えてみると、専門性、広場性、地域性、市民性がもとより備わっているものです。古来図書館は「ひろば」として、複合的に柔軟に、そして必ず専門的に造られます。

① 資料・情報、職員・組織、施設・環境の計画と、それらを統合するという図書館計画には、3方面の「専門性」の総合化が必要です。

※策定委員会意見を

分類整理して文章化する

② 多様な活動を受け入れ、人と資料と場をつなぐ計画には、自由かつ柔軟な場のしつらえの「広場性」と安全資料管理の両立が必要です。

※策定委員会意見を

分類整理して文章化する

③ 多摩市の人々と地勢がつつかった「歴史性」「地域性」を収集して、統合する図書館資料計画には、全ての行政部門との連携が必要です。

※策定委員会意見を

分類整理して文章化する

④ 人と資料と場の計画と、その企画・運営に、多様な意見を受け入れなければならない図書館計画の工程には、「市民性」が必要です。

※策定委員会意見を

分類整理して文章化する

多摩市立図書館本館再構築基本構想  
第四章 中央図書館づくりの進め方

※出典：平成22年4月  
多摩市立図書館協議会  
「多摩市における中央図書館  
機能およびその整備のあり  
方について(答申)」  
2, 5, より



7門/芸術の場のしつらえ。本を知る司書による選書と配架編集と表現、趣旨に沿った場のしつらえ。3つの専門性の総合化で場づくり



図書館の本質は広場だという



資料館と協働で縄文の遺物をショーケース書架に展示する

※出典：平成22年4月  
(3) 地域コミュニティの中核として  
P8-②、③、④の記述より



輪になって「あたらしい図書館」を話し合う

## 4-2. 資料世界構築と開架室の配架表現

多摩市の中央図書館や駅前拠点館、地域館では、どのような資料収集の方針を持つべきなのか、またそれぞれの開架室資料群を、どう構造化させ表現するのか、研究が必要です。現在の多摩市立図書館の蔵書構成や利用形態の特色と課題は明らかになっていますので、そこから中央館の開架室資料の在り方は、専門化、ワンストップ型、奥行き、ひろがり、など示唆されるところです。複数の研究委員会の立ち上げが望まれます。

- 多摩市では比較的低い資料予算にもかかわらず多様な図書購入がされている。
- それらは拠点館地域館に分散的に所属され、一図書館でアクセス出来てない。
- リクエスト数の多さは、一図書館での充足度が低いことが背景にある現象か。
- 専門の利用に、一箇所ですべての図書館の必要性が中央館に求められる。(多摩市立図書館の蔵書を、名高い浦安市や調布市と、大妻女子大松本研究室がカーリルを使って比較分析をしています。)
- 本はどの分館へもリクエストで届けられるが、返却された館に留まっている。それは、バランス良く関係づけられた配架表現ができてない常態を意味する。

①. 蔵書構築：各分野各主題資料/専門書/多摩市ならではの資料を長期的展望で収蔵と構築をしてゆきたい。

- 中央館の資料は、広がりとおもひを持たせ、ここにくれば一箇所ですべて、予約取り寄せしなくても、ことが足りる資料世界構築をめざしたい。
- 地域館には、子どもには基本図書といわれる絵本・読み物を複本として常備させ、一般は、動かない本を引き上げ新鮮な資料と新聞雑誌は揃えたい。
- 関戸公民館の市民活動情報センターには女性学図書群が図書館とは独立して配置してあります。市内施設に分散する専門的で魅力的な資料についても共通書誌MARCにのせ、所在検索がどこからでもできるようにしていきたい。

②. 開架表現：個々の資料収集だけでなく、資料が関係づけられ棚上で沿わされて、資料世界の主題が表現されていて欲しい。

- 資料を俯瞰できる読書人でもある図書館員が、選書した本を組み立てて、開架室のゾーンやコーナーや連や棚を駆使して、世界を表現して欲しい。
- NDC分類がふさわしい場合もあるだろうが、資料形態をこえて総合化された現代の主題に合わせて編集された混配などの棚表現も試みてほしい。
- 専門的な雑誌は主題で分類配架をして、バックナンバーを長く主題開架に留めるなど、展示表現に工夫と柔軟性をもって魅力化をしてほしい。
- 

③. 相談業務：充実したレファレンス、質の高い図書館サービスを。

- 個人の疑問や日常の課題解決など、クイックレファレンスも重要です。
- 地元企業、商店主、起業希望者、教員、行政、例示されているビジネス支援に留まらず、開架室全てを役立つ相談資料世界に組み立てて欲しい。資料提示に留まらず利用者と専門家を出会わせる機会提供につなげたい。
- レファレンスデスクの設置とレファレンス専門職の配置を行い、市民のさまざまな課題に応える働きを積極的に知らせるべきです。
- 市の行政や議員へのサービスを強化し、まちづくりにつなげるべきです。
- 全ての資料とサービスを「役立つ図書館」の認識につなげてほしい。

④. 資料保存：災害や温湿度に対応できて拡張性のある書庫機能を。

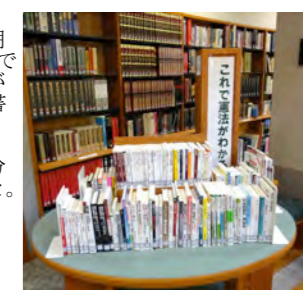
- 貴重な図書、地域資料の安全な保管場所を確保する必要がある。建築面積を増やさず耐震性や可動集密書架など他市事例を研究したい。
- 20年～30年は増設に耐えられる順次拡張性のある開架書庫を構想したい。
- 和書や漢籍や文書、日本画、掛け軸など、図書につながる「もの資料」を補完収蔵できる調湿収蔵庫が図書館で併設された他市事例にも学びたい。
- 開架室と開架書庫だけでなく、利用者が入室して自分で本を探せる準開架や公開書庫についても、その使い方を含めて他市の事例を研究したい。
- 学校支援やアウトリーチサービスに対応する複本資料やメールサービスの資料を整理準備する地域サービス書庫を、機能的位置に集約的に配置する。

多摩市立図書館本館再構築基本構想  
第四章 中央図書館づくりの進め方

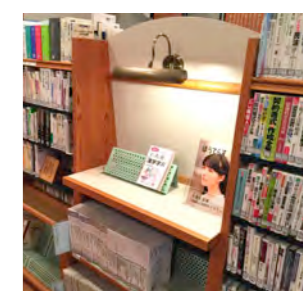


世界と歴史を集めて箱庭のように表現展示する

※カーリル：1-07頁説明  
※MARC：ITCで自動判読ができる図書カタログ。  
※NDC分類：日本10進分類法のこと。



憲法を主題にNDCを越えて編集



支援を前面に法テラスの机台



雑誌特集を沿わせて文学展示



震災・原発：地域が直面する課題に司書はアンテナを張りタイムリーな企画棚をつくる

※出典：平成22年4月  
多摩市立図書館協議会  
「多摩市における中央図書館  
機能およびその整備のあり  
方について(答申)」  
に記されていること。より

### 4-3. 大切な図書館員の専門性と職員組織づくり

多摩市の中央図書館づくりでは、今、現況を知り、目標を語り、共感を確かめる基本構想の道を歩いています。そして、次の段階は図書館基本計画という、具体化のためのプログラムをつくる大切な工程に進むこととなります。その大きな柱に、表題の「運営体制づくりと経営計画」にかかわる施策の再編と精査が想像されます。基本計画と併行したシミュレーションが求められますが、ここでも繰り返して、図書館協議会の提言を書きとどめておくことにします。

- 中央図書館機能を実現するためには職員(司書)の資質の向上は緊急の課題。
- 利用者が満足するサービスに対応できるよう研鑽とスキルアップが必要。
- 職員を専門職(司書)と位置づけ、専門性を第一義にした職員採用の検討。
- 中央図書館は、あらゆる情報を結ぶ場、情報提供の場、情報センター運営などの多様な要である。多摩市にも中央図書館ができること、また、今後とも継続して多摩市が責任を持って運営することを強く望む。

※出典：平成22年4月  
「多摩市における中央図書館機能およびその整備のあり方について(答申)」  
P8(4)職員のあるべき姿  
P9の5. 終わりに より



サービスデスクを明け渡して司書は相談に出る

#### ①.市による直営の図書館運営、継続的な司書職員集団による図書館の運営を守るといった目標の利点と意義を確認したい。

※策定委員会意見を

分類整理して文章化する

#### ②.第一に職員の研修、専門性の向上を必要条件と考えて、段階的研修や業務に内在させた研修方式を研究したい。

※策定委員会意見を

分類整理して文章化する

#### ③.現状の経常的な図書館総歳費(1.3%)を増大させることなく、人件費の縮減と資料費の拡大をめざす研究をしておきたい。導き出される年間資料購入費が蔵書構築の計画条件となる。

※策定委員会意見を

分類整理して文章化する

#### ④.編成する職員の仕事分担、仕事時間の合理的な見直しにより、全人件費の縮減と、全市図書館の人的資源の再配分の方策を研究したい。

※策定委員会意見を

分類整理して文章化する

#### ④.人件費の縮減は、開館時間・開館日の見直しとも相関する。開館時間や曜日の調整をして、専門性を守りつつ歳費改革を果たした図書館先進国北欧の図書館運営の手法を研究したい。

※策定委員会意見を

分類整理して文章化する



資料世界をつくって待つ司書



相談者の人生に向き合う司書



司書は現実アンテナを張る



くにおせんせいのお話 子どもと向き合う司書の心

### 4-4. 機能的/快適/魅力的/経済的な施設づくり

施設については、近年の図書館づくりでは共通して上記の目標が掲げられます。また、省エネルギー化やバリアフリー化については新しい法律が整備され、地方自治の条例が細目を定めていますので、自動的に計画や設計がチェックされる体制ができあがっています。

表題の4項目の要点を整理するまえに、ここでも前述の図書館協議会の答申から、該当する文章を書きとどめておきます。

- 図書館の設計にあたっては、利用者であるさまざまな市民の意見を聞くとともに、専門家の意見も十分に取り入れる必要がある。また、図書館建築に実績のある優れた設計事務所を選んで、使い勝手の良い、居心地の良い図書館を目指す必要がある。

#### ①. 機能的であること：

- 図書館建築は、成長し変化する図書館に対応して長期に審判されます。
- 図書館はその運営主体の意図によって千差万別ですから、その建築が機能的であるということは難しいことです。そして、当初の運営意図が変化して、建築は成長の邪魔をする困り物に成り下がるのが常です。機能的な図書館建築を手に入れるためには、設計に対して緻密な方針を与える条件プログラムを、図書館が準備することが一番大切です。
- 基本計画で条件プログラムが準備されたら、聞く耳と理解する知見のある設計者を選定して、図書館をどうしたいか協議協働してゆきます。
- 図書館建築について語ることは楽しいことですが、図書館を図書館としてつくること、建築は大切だが目的ではないことを共感すべきです。

#### ②. 快適であること：

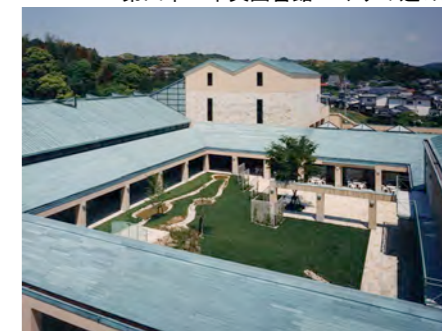
- 図書館建築を考えると3つの快適が語られることになります。
- まず、利用者にとってのさまざまな快適が考えられます。さまざまとは、静かさを求める人、賑わい出合いを求める人、それぞれの行為にふさわしい快適さがある、近接したり同居したり折り合いが必要になります。グラデーションやゾーニングの工夫で解決が必要です。
- 次に、本の居心地も課題になります。物理的な温湿度環境の調節の他、本の主題が求める場の気分、出会うべき人との舞台場面も大切です。
- 地球環境にやさしい建築という視点では、CO<sub>2</sub>の消費を少なくする、自然の気候を活用する工夫が、省エネの方針として取り入れられます。ガラス張建築が人気ですが、開架の南と西に大きな開口を造ることは、熱負荷と本の日焼から、かつての図書館建築ではタブーとされました。

#### ③. 魅力的であること：

- 利用者をまた来たいと思わせることが、魅力的ということと考えます。図書館として、ふさわしい機能と環境が必要条件としてあり、それが時間を経過して活動が成長したときに、古びないことが求められます。不易と流行と古来言われますが、言葉遊びの一人歩きや花火のようなはかない結末に、公共建築は注意を払います。
- 都市的で複合的で広場的な性格を持たせる共用部や、集会や展示機能のスペース、フリースペースは、機能や場を持つべき雰囲気が刻々と変化する特色に対応させて、わかりやすく魅力的にしつらえることが望まれるところです。

#### ④. 経済的であること：

- 一番不経済なことは、施設が機能の変化に追いつけずに、建築の寿命とされる五十年百年を待たずに、取り壊しや建て替えになることです。活動の成長の方向性を見越して、可変性や拡張性を織り込んだ施設をつくるのが、いちばんの長寿命で経済的な建築と考えるべきです。また、運用に大勢の職員が必要な図書館建築の採用も不経済です。
- 建設と運用と修繕のトータルな費用をライフサイクルコストとします。建設など当初の投資費用をインシヤルコストといい、さまざまな低減の工夫がされますが、資金調達で大きな金利負担も要注意です。エネルギー消費や施設の点検メンテナンスにかかる費用がランニングコストですが、事業手法によっては運用の人件費も計上されましよう。
- ランニングコストは、深夜電力利用など経済的な判断と、地中熱や井戸水や樹下の涼しい空気を利用する技術的な工夫が行われています。



僧院に似た図書館の中庭、静かな目と心の為に



ほっとする野外読書テラスのある図書館がいい



冬期には床暖房の「図書館のサンルーム」のギャラリーで 読書しながらお茶を飲みたい



積層する開架書庫が開架室から見るとよい 下の層には利用者が入れる公開書庫がほしい



積層書庫の上の層には可動集密書庫が必要だ 本が増えたら、順々に書庫を増やせばよい

基本構想策定委員会の開催経緯

- ・ 第1回策定委員会 平成28年 6月25日
- ・ 第2回策定委員会 平成28年 8月 6日
- ・ 第3回策定委員会 平成28年 8月29日
- ・ 第4回策定委員会 平成28年 9月24日
- ・ 第5回策定委員会 平成28年10月29日
- ・ 第6回策定委員会 平成28年11月20日
- ・ 第7回策定委員会 平成29年 1月 7日
- ・ 策定委員会の構成と進め方について、詳細は次ページチャートによる。

基本構想策定委員会 委員構成

- ・ 任期：委嘱の日（平成28年6月25日）から平成29年3月31日まで

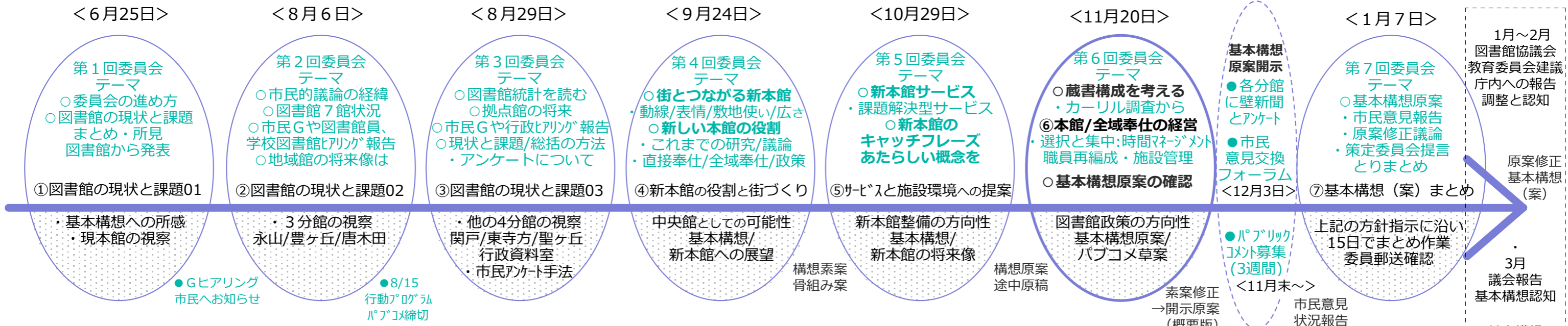
氏名	備考
ヤナギダ 柳田 邦男 (委員長)	学識経験者
トコヨダ 常世田 良	学識経験者
スズキ 鈴木 充	教育委員会委員
マツモト 松本 直樹 (副委員長)	図書館協議会委員
テラサワ 寺沢 史	学びあい育ちあい 推進審議会委員
オナカ 尾中 信夫	都市計画審議会委員
チバ 千葉 正法	多摩市立小中学校長
ツジヤマ 辻山 妙子	多摩市民（子どもの読書活動 推進計画市民連絡会）
アオキ 青木 洋子	多摩市民（多摩市に中央図 書館をつくる会）
オオサワ 大澤 拓未	多摩市民（成人式実行委員 から推薦）

未入稿

基本構想策定委員会 事務局

多摩市教育委員会  
多摩市立図書館  
作成支援コンサルタント

● 策定委員会の構成と進め方について（第六回策定委員会 検討資料）



＜策定委員会への資料提示（トピックス）の準備/委員会に併行するヒアリングや部会議論 など＞

■ 図書館員（専門職集団）との・意見交換・課題研究など 策定委員会に職員研究会から意見を届ける。

- △7/7.第1回（話題提供：計画同人）・現状を図書館員が俯瞰議論する。・市民要望を館員から読み解く。  
→ 「地域館/拠点館/新本館の今後」について、図書館員ひとりひとりの考えを策定委員会に届ける。
- △8/4.第2回（講師に松本策定委員）・図書館協議会での議論と意見。・新図書館へ体制の脱皮に。  
→ 「新中央館とは、他市の比較、あり方」について、図書館員としての課題の例示/ワークショップ。
- △9/24.第3回（講師に常世田策定委員）・多摩市の図書館員有志の集まり・どんな日々の努力が大切か。  
→ 図書館員としてどう学び直し、どう変わるか、図書館員としての課題への向き合い方
- △9/24.→ H23「基本方針・運営方針」とH28「読書活動振興計画」を「本館再整備基本構想の基盤」として策定委員会は議論する。

■ 図書館協議会/教育委員会など（連携/政策集団）との 情報提示・意見交換 など

- △7/21.子どもの読書活動推進計画市民連絡会ヒアリング：地域の文庫活動や地域館での活動から図書館を考える
- △8/25.図書館協議会ヒアリング：二度の図書館政策の総括的提言、読書活動推進計画と市民反響後の追加的研究成果
- △8/01.企画政策/総務/教育部門ヒアリング：行動プログラムの更新、財政展望・図書館人事・図書館施策の将来像
- △9/24.→ H22図書館協議会「中央図書館整備のあり方答申」を「本館再整備基本構想の骨格」として策定委員会は議論する。

■ 学校図書館員/行政資料室など（連携/類縁集団）との 情報提示・意見交換 など

- △7/21.学校図書館司書ヒアリング：学校図書館支援、教育支援、支援連携の展開←生徒一人利用密度と資料費.統計
- △7/21.行政資料室ヒアリング：行政施策との連携（行政支援/行政文書受け入れ/チラシポスター/地域資料構築）
- △9/23.学校図書館全体司書会ヒアリング：学校図書館の展望、中央図書館に望むこと、支援と連携について
- △11/1.経済観光課商工担当ヒアリング：図書館のビジネス支援へのニーズ、多摩市の現在の創業支援施策と今後の展望

■ 逐次：中央館開設や今後のサービス方針展開に関わる状況のヒアリングなど（図書館企画運営係ほか）

- △ボランティアの形、グループ状況、全体連絡会、ボランティアコーディネートの展開
- △障害者支援、青少年支援、幼稚園保育園、包括支援センター連携、病院支援、福祉作業所、  
（ブックスタート/包括支援との連携/共同参画/本のリサイクル/公民館図書室の展望/ほか、行政施策との連携）
- △広域利用や都市連携、大学図書館連携、公共図書館連絡会、都立との関係

■ ご希望市民グループ/図書館研究市民グループなどとの 情報提示・意見交換 など

- △7/21.多摩市に中央図書館をつくる会ヒアリング：再度、中央図書館はなぜ必要か/図書館友の会への展望/これからの市民活動の連帯
- △8/09.多摩市の地域図書館の存続を考える会（4団体）ヒアリング △8/25.多摩市の社会教育を考える会ヒアリング  
→ 9/24.「公共施設の見直し方針と行動プログラム更新案に対する私たちの意見(パブコメ抜粋)」が策定委員会に提出される。
- △8/25.多摩おはなしの会ヒアリング、 ○おはなしシュッポポの9月定例会からご意見が届く、
- △9/24.→ 「市政世論調査や各種アンケート」「行動施設の見直し方針と行動プログラム更新案へのパブコメ」「グループヒアリング」「説明会意見」など、  
これまでの図書館への市民意見をふまえ、素案への意見も積み重ねて、基本構想素案を策定委員会は議論する。

■ 市議会子ども教育常任委員会勉強会での情報提示・意見交換 △11/10.・進捗を館長が説明。各議員から質疑とご意見。

＜11月20日＞  
第6回委員会テーマ

○追加的報告：  
・11月1日経済観光課商工担当との意見交換  
・11月10日議会子ども教育常任委員会勉強会  
からのご意見

議題01.  
現況蔵書構成の課題、今後の資料構築へ。  
◎委員提言：カーリル調査の結果から 松本委員  
協議：

議題02.  
新本館と全域奉仕の運営/経営の方向性。  
○図書館歳費(人件費・資料費・維持管理費)前提条件の方向性  
「長期的経常的な歳費増大に抗する政策方針の条件」との整合  
○開館日数と時間(マネージメント再編の可能性)  
○職員体制(本館/分館/アトリーサービス/学校支援/夜間増員)  
(正規職員と非常勤職員、司書と一般職：分掌構成)  
○管理運営の弾力性を担保するICTなど  
○市民ボランティアの位置づけ、協働の原則など  
協議：

議題03.  
パブコメ開示情報/基本構想(案)原案草案。  
協議：

○追加的報告：1月7日までの進み方  
今後の基本構想の検討について

- 行動プログラム更新への市民意見
- ・7/23関戸市民説明会
- ・8/5 永山市民説明会
- ・8/6 パルノ多摩市民説明会
- ・8/15 パブリックコメント締切
- ・8/31聖ヶ丘市民説明会
- ・10/5唐木田市民説明会
- ・10/13東寺方市民説明会
- ・10/22豊ヶ丘市民説明会